

アグリメッセージ

発行 伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課
橋本市市脇4-5-8 TEL 0736-33-4930

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130300/90/93/index.htm>



新規就農者向け現地研修会を開催

農業者の高齢化が進む中で、地域農業を持続するためには、新たな農業の担い手の確保が重要です。

農業水産振興課では、新規就農者の資質向上や交流の場を提供することを目的に、8月23日に果樹、11月20日に野菜をテーマに現地研修会を開催しました。8月の研修では元指導農業士の山根木弘修氏、11月には元指導農業士の土井富久子氏にそれぞれ講師をお願いし、園地視察と経営内容や販路開拓、園地の管理等について説明をいただきました。参加者らは施設の説明、経営の考え方について熱心に話を聞き、多くの質問がだされ、意見交換の場では営農上の悩みや不安、農業経営の考え方など幅広い意見が交わされました。今回の研修会は、若い農業者同士の情報交換ができただけでなく、ベテラン農家のアドバイスが非常に参考になり、先輩農家との交流の良い機会となりました。

今後も伊都地方の農業を盛り上げる担い手を育成するため、技術研修会や交流会を開催し、補助事業の活用など新規就農者に対する支援に力を入れていきたいと考えています。より多くの新規就農者が地域に定着できるよう、関係機関と連携した支援体制を構築していきますので、地域の農業者の方々にもご協力をお願いします。

GAP（農業生産工程管理）に取り組みませんか

農業従事者の高齢化に伴い農作業事故の発生は全国的にも増加傾向にあります。

農作業中には「ヒヤリ」や「ハット」を経験することもあります。そのヒヤリやハットを飛び越えると重大な事故につながる場合もあります。そのため、日頃から安全確保のため農作業環境の改善等に取り組み、事故につながるリスクを軽減することが重要です。

また近年、食品への異物混入や偽装表示など、食に対する安全性を脅かす問題が数多く生じており、食の安全に対する消費者の意識は高くなっています。

「GAP」とは、Good（良い）Agricultural（農業）Practice（実践）の頭文字をとった略称で、日頃から行われている生産履歴の記帳や作業上の問題や危険を見つけて改善することで、作業の効率化や事故を未然に防止する取り組みです。

記録等の手間がかかりますが、自身の農作業管理や園地状況を見つめなおし、改善する良い機会になりますので、取り組んでみませんか。

GAPの詳細については、農業水産振興課までお問い合わせください。

★★★ 参加者募集 ★★★

平成30年度 農業技術講習会の受講者募集について（ご案内）

【募集内容】

- 定員：各コース25名。
- 受付期間：平成30年2月28日（水）まで。申込者が定員を超えた場合は先着受付順。
- 就農意欲があり、基礎技術を習得したいとお考えの方で、平成29年度中に退職された方、又は退職されて数年の方、新規に就農を希望する方を優先します。
- 受講は複数コースを申し込みできます。

□果樹（柿）基礎コース

日程	内容
4月下旬	摘蕾、人工受粉、病虫害防除、管内の農業概要、実習（摘蕾）、刈払機安全講習
5月中旬	環状はく皮、GA処理、農薬安全使用、実習（枝剥皮、枝管理）
6月下旬	摘果、柿の主な品種、実習（摘果、枝管理）
8月下旬	収穫前管理、果実軟化対策、樹上脱渋、施肥、実習（樹脱）
12月上旬	剪定及び土づくり、休眠期防除、剪定講習

□果樹（柿）専門コース

日程	内容
7月下旬	柿の生理生態、施肥、病虫害診断
12月下旬	せん定実習
3月中旬	接ぎ木実習

□野菜コース

日程	内容
4月下旬	夏秋野菜の栽培管理（トマト、ナス、キュウリ、ピーマン等）、管内の農業概要、刈払機安全講習
7月下旬	秋冬野菜の栽培管理（キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、カブラ、ホウレンソウ等）
8月中旬	秋冬野菜の栽培管理（タネキ、ダイコン、ジャガイモ、サトイモ、エンドウ等）

□花コース

日程	内容
6月中旬	ストック、ハボタン、キンセンカ等の栽培管理、花栽培の基礎知識、管内の農業概要
12月中旬	コギク、アスター、ヒマワリ、ヒサカキ等の栽培管理

申し込み・お問い合わせは、伊都振興局農業水産振興課（TEL：0736-33-4930、FAX：0736-33-4931）まで連絡願います。

たねなし柿の摘蓄省力化処理の現地実証試験結果

農業水産振興課では平成28年度から「刀根早生」栽培園地において、摘蓄省力化のために結果母枝切り返し技術の実証を行っています。昨年度は処理により収量減少を招いたため、今年度は最終着果量に留意し、摘果を傷果や奇形果等最小限で行いました。

その結果、慣行樹に比べて摘蓄作業時間は約2割削減でき、摘果作業時間も約4割削減できました。また、収穫量を減少させることはなく、1果重は同等でした。一方、樹によっては樹勢が強くなる傾向がみられました。これは、切り返しにより強せん定となるため、着果負担を掛けても樹勢が強化される樹もあるものと思われます。

農業水産振興課では、引き続き結果母枝切り返し技術について調査を行っていきたいと考えています。



結果母枝切り返し処理樹での着果状況

結果母枝切り返し処理の収量および1果重への影響

処理区	結果母枝あたり 収量(g)	1果重(g)
結果母枝切り返し	683	247
無処理	611	254

伊都のいちご栽培の現状と今後の取り組みについて

伊都地域では高設ベンチによる養液栽培を主体に300.7aのイチゴ産地が形成されています。主力品種は「まりひめ」を主体に「さちのか」「さがほのか」「紅ほっぺ」となっています。

平成29年に県農業試験場で育成された新品種「紀の香」は「まりひめ」と比較して約2週間早く出荷できる極早生の品種です。農業水産振興課では、「紀の香」の現地適応性について現在調査を行っています。また、ハダニ類の天敵を放飼した実証圃を九度山町内に設置し、防除効果等についても調査を行っています。

これらの取組結果について、平成30年2月の研修会で紹介しますので、興味のある方はぜひご参加ください。



「紀の香」の栽培状況

和歌山県かき・もも研究所が柿の新品種を育成

かき・もも研究所では、10月中旬以降に出荷可能な甘ガキの育成を行ってきました。このほど、優良な形質をもつものを農林水産省に品種登録申請し、平成29年6月出願公表されました。

この柿は、「紀州てまり」と名付けられ、早生で着色の良い「早秋」に良食味の「太秋」を掛け合わせて育成された完全甘柿です。10月中下旬に収穫が可能で、「太秋」特有の条紋が発生せず、果皮が赤橙色で外観が優れるのが特徴です。糖度は17%程度で、多汁で良食味の果実が生産可能です。

栽培特性としては、「太秋」のように雄花の着生はみられません。また無核でも生理落果が少ないため、受粉作業は必要ありません。

農業水産振興課では、現地への普及に資するため、栽培適性の調査を行っていく予定です。なお、苗木の流通は平成30年以降となる予定で、和歌山県内の生産者に限定されます。



収穫期の「紀州てまり」

温州みかん【紀のゆらら】の商標が使用可能となりました

県内在住で、和歌山県農業協同組合連合会（以下：県農）を通じて極早生温州みかん〔YN26〕の果実を出荷されていない生産者の方を対象に、一定の品質基準を満たした果実に限り【紀のゆらら】の商標を無償で使用する事が可能となりました（商標は県農が所有）。

商標の使用を希望される方は、手続きが必要になりますので農業水産振興課までご相談下さい。

【商標が使用可能となる品質基準】

収穫時期	着色基準	糖度	クエン酸	等級	階級	出荷容器
10月上旬まで	3分着色以上	10.0度以上	出荷時 1.00% 以下	秀・優・良	2L ～ 2S	10kg又は 7.5kg 段ボール
10月中旬	4分着色以上					
10月下旬以降	6分着色以上					

枝豆栽培の取組みの紹介

生産者の所得拡大を目的とし、早生枝豆の栽培がJA紀北かわかみで推進されています。

枝振りが良く、うまみのある「美味黒早生枝豆」（山本種苗店オリジナル）が指定品種です。播種時期は4月上旬で、収穫時期は6月下旬～7月下旬となる栽培体系です。

出荷調整の方法は、

- ・実入りの悪い莢や傷みのあるものを外す（1粒莢は出荷可能）。
 - ・葉を除去し30cm以下の枝の状態に調整して出荷。
 - ・個人コンテナでマルガク選果場に持ち込み。
- となっています。

収穫時期が柿の作業と競合しないので、新たな収入源として枝豆栽培に取り組んでみませんか。



収穫期の「美味黒早生枝豆」